

# 農村生活向上における女性の役割

## 実施地域

カンベンセン



## 1. プロジェクト要請の背景

アジア諸国の多くで女性は農業生産に大きな役割を果たしており、農村開発においては女性の役割に配慮がなされなければならない。そのうえで、農村女性の労働負担を軽減しつつ現金収入を創出し、女性の社会への参加を促すことが望ましい。このような背景のもと、アジア諸国の農村女性を対象に、女性の能力開発と農業技術改善を通じて農村での生活向上を図ること目的として、本研修が実施された。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1995年度～1999年度

### (2) 援助形態

第三国集団研修

### (3) 相手側実施機関

カセサート大学農業普及研修センター

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

アジア諸国において、農村女性への農業技術の普及を通じ、女性及び農家の生活を改善する。

#### 2) プロジェクト目標

アジアからの研修員が、農村女性を対象とした農業技術普及のための知識と技術を習得する。

#### 3) 成果

- 地場資源を活用した農村技術の改善を図るための知識・技術を習得する。
- 農村女性を組織化し、その活動を促進するための知識・技術を習得する。
- 農村女性を対象とする農業技術の普及方法に関する知識・技術を習得する。

#### 4) 投入

##### 日本側

短期専門家 5名

日本研修受入 2名

研修経費 0.13億円(365万8,000バーツ)

##### タイ側

講師

研修、機材

研修経費 0.08億円(227万7,000バーツ)

## 3. 調査団構成

団長・総括/研修計画: 江藤 双恵 国立身体障害者リハビリテーション学院講師

女性の役割・運営管理: 倉田 聡子 JICA 企画部環境女性課

## 4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1999年3月24日～1999年4月3日

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

本研修は、日本から5名の短期専門家を研修講師として派遣する一方、研修実施機関であるカセサート大学農業普及研修センターの女性普及員指導者2名を日本での研修に受け入れることにより、おおむね円滑に運営・実施された。ただし、研修の応募資格要件を満たしていない研修員も少なくはなく、円滑な研修の実施が制約された面もある。

### (2) 目標達成度

本研修では、1995年度から1998年度までの4年間で75名の研修員が、地場資源の活用、農村女性の組

織化、そして農村女性への農業技術の普及方法などに関する知識と技術を習得した。タイの農村の現状、技術レベルなどが研修参加各国と似ているため、研修員への技術移転の達成度は高かった。

### (3) 効果

本研修を通じ移転された知識と技術は、母国での実際の活動に適用可能な有効なものであるが、それらの活用の度合いは、研修員の帰国後の職務、機材、予算確保などにより、さまざまな状況が考えられる。今後、帰国研修員に対する追跡調査を実施することにより、本研修の総合的な評価が定まるであろう。

### (4) 計画の妥当性

女性は農村における生産・生活活動の半分を担いながら、従来その役割が看過される傾向があった。将来の農村開発を成功に導くために女性の能力開発と技術向上が不可欠なことは、1975年の国連婦人年、それに続く国連婦人の10年を経て、国際的にも理解が広がっている。

アジア諸国においても、タイ、カンボディア2国でのサンプル調査の結果、農村女性の人材開発に対するニーズは依然として高いものがある。

### (5) 自立発展性

本研修の実施機関であるカセサート大学農業普及研修センターは、人材的及び組織的にも研修実施体制は確立しており、今後の自立発展性は高いと考えられる。

## 6. 教訓・提言

### (1) 教訓

応募資格要件を満たしていない参加者がいたことが、本研修の効率的な研修の実施に影響を及ぼした。第三国集団研修では、事前の調査によって研修希望者層を十分把握するとともに、実情に応じた資格要件の見直しを柔軟に行っていく必要がある。

### (2) 提言

本研修によって習得した技術の帰国後の活用状況について、モニタリングし、その効果や問題点などを明らかにする必要がある。また、本研修では、タイ国内からの参加希望者が非常に多かったことから、今後、タイでの現地国内研修の実施を検討する必要がある。



講義風景( Dr. Chaiskran によるジェンダーについての講義 )



講義を熱心に聞き入る研修生